

会報20号

電話 075-691-7561
 発行責任者 木村信彦
 編集責任者 石田房一 (代表顧問)
 広報編集部 松田誠二 (広報部長)
 清水美優 (広報担当)
 編集部 西片里紗
 木村亜衣



国の重要無形民俗文化財指定
 吉祥院六斎念仏踊り

*It has been designated an Important Intangible Folk Cultural Property.
 Kissyojin Rokusai Nenbutsu Odori. Designated in 1983.*

六斎とは、六斎念仏踊りの略称で、昔、仏教徒が斎戒奉仕した「八・十四・十五・二十三・二十九・晦日」の六斎日に行った宗教行事から起こり、約千年前、空也上人が民衆教化のため、京洛の街頭に立って鉦や太鼓を打ち鳴らし、踊りはねながら読経念仏を唱えて廻ったことから始まったと伝えられています。

最初は僧侶混淆し、後に欲人のみで行われるようになると、共に段々陽気なも



テーマ「伝統芸能と人権を継承」で講演

のに変わり、次に農村娯楽として工夫加味充実され、青年によつて受け継がれて、現在の「六斎」にまで発展したもので、芸色豊かな空也堂系と地味な干菜寺系に分かれます。過去、京都市周辺の農村各地で多数の六斎組が組織され、江戸末期には四十組近くを数えましたが、その後時世の推移とともに都市化が進み、生活の趣味娯楽も変わり、次に消滅し、遂に現在数組を残すのみとなりました。

吉祥院地域では盛況時各町内に六斎を保存していましたが、その後減ったとはいえ、昭和四十年頃迄は五組が保存し、歴史が古く枝分かれ組も多いことから古今を通じ、中心地と自他共に許し、昭和二十八年に代表して国

第六十五期京都人権文化講座が東本願寺のしんらん交流館大谷ホールで開催され、約百人が参加されました。「地域芸能と人権を継承する」吉祥院子ども六斎会の試み」と題して、吉祥院六斎歴史研究会「獅子の如く」石田房一代表顧問が講演しました。

京都人権文化講座 東本願寺しんらん交流館 地域芸能と人権を継承する 吉祥院子ども六斎会の試み

京都人権文化講座 東本願寺しんらん交流館

の重要無形民俗文化財に選定されました。

現在、吉祥院地域では菅原町六斎組のみが保存継承しており、会員は以前には十五歳から三十歳迄の青年で組織されていましたが、近年に至り後継者事情から年齢の制限を徐々に解いて、必要人数二十余名の確保に努めています。

講演終盤、木村信彦会長



木村信彦会長と村田大輔副会長の獅子の技を披露

と村田大輔副会長が獅子の技を披露すると、会場から大きな拍手が沸き起こりました。広報の清水美優が詩を朗読し「…人として生きることを守るのだ」と紹介しました。

最後に石田代表から『六斎を維持継続発展する為、地域ぐるみで六斎を育成するよう努力していますが、後継者が手薄な現状です。先人から受け継いだ六斎念仏踊りの灯を消すようなことになりかねません。その為、地域芸能育成に向けて企業等から多大なご支援をいただき、地域ぐるみで六斎発展にご協力をいただいています。今後とも吉祥院の伝統芸能として、又は青少年の六斎であるよう、より一層のご協力とご指導をお願い申し上げます。』と講演を締め括りました。



私たちは、吉祥院六斎歴史研究会「獅子の如く」の活動を応援しています。

NPO法人ふれあい吉祥院ネットワーク
 理事長 野村良博

吉祥院人権啓発企業連絡会
 会長 西留哲也

解放新聞社京都支局
 〒603-8151京都市北区小山下総町5番地の1
 京都府部落解放センター内 代表 西島藤彦

企 祥 会
 吉祥院を良くする企業の会
 代表 山中兼一

株式会社新井建設工業
 〒601-8364京都市南区吉祥院石原南町16-24
 代表取締役社長 新井正幸

岩本建設株式会社
 〒601-8361京都市南区吉祥院石原京道町31番地
 代表取締役社長 岩本俊博

古代の神社と祭り

庶民に広まった祭り

江戸時代には、祭りはすっかり庶民の娯楽として定着し、神輿や山車の行列、獅子舞、花火大会など、現在もお馴染みのイベントが多く見られるようになりました。

また、お盆に踊られる「盆踊り」や「七夕」など、仏教、外国伝来の行事に由来するもの、武将たちの戦勝を祈願したものの、疫病の沈静化を願ったものなど、新しい由緒を持つ祭りもどんどん生まれていきました。

神仏分離を経て

長い間、神仏習合に基づいて祭りは行われていましたが、明治維新とともに政府より発せられた「神仏分離令」によって、その歴史は大きく変わることとなりました。

祭政一致社会をめざし、神道のみを国民の精神的要とする「国家神道」を掲げた政府は、仏教と神道を切り離したばかりか、「廃仏毀釈（はいぶつききやく）」という徹底し

た仏教の撤廃を行いました。単に神社から仏像を破壊

したばかりではなく、仏と関係の深かった祭神の強制的な変更や追放、社寺の領地押収による廃寺化、仏教行事の禁止など、日本からありとあらゆる仏教的要素が消えていきました。

神道においても神社は国家の管理下に置かれたことで、今までの体制を大きく変更させられることとなります。伊勢神宮を頂点として、天皇との関係が深い順に神社の位が定められた「社格制度」、複数の神社

現在の神社と祭り

現在の祭り

終戦後、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）に

より、国家神道は解体され、神道自体も国家による管理体制を離れ、廃仏毀釈の波も収まったことで、神道と仏教はまた新たに別々の宗教として道を歩んでいくこととなりました。分離令により失われた祭りもいくつかは伝統を引き

を統合、消滅させ一社ごとの威厳を強固なものにする「神社合祀」など、これらの政策は神社のあり方はもちろん、祭りにも多大な影響を及ぼしました。

仏教行事に由来した催し事はもちろん、神仏両方を祀っていたものやそうでないもの、新しいものから伝統あるものまで、様々な祭りがこの政策で消滅してしまいました。

残された祭りも仏教要素の排除や祭式統一化などを求められ、形式を変えられたものも多くあると言われています。

神仏分離令は、日本の祭り史上に残る大混乱を起したのです。

継いだ人たちにより復興されるようになりました。

神仏両方の行事が親しまれるようになり、お寺や神社の催しには、宗教に関係なく多くの人が集まり盛り上がる一方で、祭りそのものが単なる大衆のイベントと化してしまっており、祭りの継承者がいなくなっているなどの問題点もあります。



それでも伝統的な祭りになると県外や外国の人が訪れ、地元の楽しみだけでなく、観光アピールとして新たな意味を持つようになっていきます。

このため町おこしや地域の活性化を目的とした新しい祭りやフェスティバルが各地で行われています。

日本全国には、様々な祭りが存在するが、その数は大小合わせて二十万とも三十万とも言われている▼しかし近年、この祭りや伝統行事が失われつつある。特に地方では少

子高齢化、人口減少で祭りの担い手が減り、存続の危機に瀕しているところも少なくない▼祭りがなくなることで「地域のつながりの希薄化」という声も聞こえる▼つまり祭りがなくなること

で「人と地域のつながり」「人と人とのつながり」がなくなることになる▼祭りに人は人や地域を元気にする力がある。特に太鼓の音には特別な力があると

言われる▼太鼓の鼓動とは、人間にとって心臓の鼓動から音（おん）をとった名前

で、太鼓の響きが母親の胎内で聞いた最初の音をイメージしているという▼そして「童（わらべ）」の文字

には子どものように何も無心に太鼓を叩くという願いが込められている。

私たちは、吉祥院六斎歴史研究会「獅子の如く」の活動を応援しています。

<p>清華園</p> <p>〒600-8202京都市下京区川端町11 ☎ 075-351-8391 店主 清水 悟</p>	<p>平井 斉己</p> <p>Toshiki - Hirai</p>	<p>武田 徹</p> <p>Touru - Takeda</p>
<p>井上工業所</p> <p>〒601-8395京都市南区吉祥院中河原西屋敷町21-1 ☎ 075-311-7430 代表取締役 井上孝司</p>	<p>株 ダイヤ・セキュリティ・ジャパン</p> <p>代表取締役 石井啓介</p>	<p>株 西 建</p> <p>〒601-8343京都市南区吉祥院稲葉町31番 ☎ 075-661-2929 代表取締役 西留哲也</p>